



住民主体の小地域福祉活動を全市で推進 ～社協が進める福祉委員活動～

養父市社協では、第2次地域福祉推進計画で「ささえあう心で 笑顔あふれる 福祉のまちづくり～みんなで作る みんなのしあわせ～」を福祉目標に掲げ、小地域での見守り活動を住民が主役となって進めるため、福祉委員を市全域で設置するとともに、身近な地域での話し合いの場づくりを重点的に行っている。

地域の課題を話し合う場づくりに向けた社協の働きかけ

平成16年の合併当初、養父市の旧4町での小地域福祉活動は、それぞれで異なっていた。すべての区(自治会)で福祉委員※が設置されている町もあれば、未設置の町もあったため、合併協議の段階から住民自らが地域課題をキャッチし、見守りや支え合いの取り組みを全市的に進める必要性が議論された。その後、社協では小地域福祉懇談会を開催したり、福祉委員が未設置の区ではモデル地区を設置して、その必要性を丁寧に説明する働きかけを行った。

その結果、現在では市内96%の区において福祉委員が設置され、区長、民生委員・児童委員、民生・児童協力委員とともに「福祉連絡会」を組織している。また、市内18の旧小学校区ごとに福祉連絡会のメンバーが集う「地区福祉委員会」では、参加者が区ごと

地区福祉委員会の様子。各区の活動目標や計画も話し合って決めます



にテーブルを囲み「福祉防災マップ」の情報更新や見守りについて情報交換・意見交換を活発に行っている。

「あのおじいさん、冬場は外に出

られない。継続して訪問をしよう」といったように、認知症や一人暮らしの高齢者、介護者の家族など気になる人について、顔の見える小さなエリアならではの、見守りに向けた話し合いが進められている。さまざまな立場のメンバーが話し合うことで、地域みんなで取り組む活動につながっている。

※福祉委員…市社協会長の委嘱を受け、区長、民生委員・児童委員、民生・児童協力委員等と協力し、小地域で会食会、ふれあいサロン、住民座談会、福祉学習会、個別援助活動などに取り組むボランティア。養父市では、全世界の1割弱にあたる716人が委員として活動している。

話し合いで生まれる気づきから、お互いを理解する地域づくりへ

地区福祉委員会での話し合いは、生きづらさを抱えながら地域に暮らす人への気づきが生まれる場でもある。これまで、「認知症」や「うつ」など

をテーマに据え、当事者を理解し、支え合う地域づくりを進めようという動きが生み出されてきた。今後も、小さな顔の見えるエリアでの話し合いの場づくりを支援し続けながら、誰もが暮らしやすい地域づくりに向けた理解と、見守り・支え合いの担い手を広げていく。

「元気にされていますか」顔の見える地域で進む友愛訪問



取材を終えて

福祉委員をはじめ地域の方々が、地域の課題や将来を話し合う様子から、過疎化や高齢化が進む中でも「安心して暮らし続けられる地域」をつくりたいという思いが伝わりました。話し合いから生まれるさまざまな気づきは、気になる人を見守り、支え合う活動を生み出す大切な基盤だと感じました。

会長から

養父市社会福祉協議会 会長 小林 哲夫

今や国家戦略特区の農業改革拠点づくりで全国的に報道され、事業も気合いも右肩上がりの養父市にある当協会は、第2次地域福祉推進計画(平成25～29年)で「ささえあう心で 笑顔あふれる 福祉のまちづくり～みんなで作る みんなのしあわせ～」を福祉目標に掲げ、全市的重点目標として「小地域での見守りあい活動をみんなですすめましょう」を目指しています。

一方、住民の皆さんの思い・願いである「誰もがいつまでも安心して暮らせる地域でありたい」と、目指すところは同じであり、両輪として機能すべく連携を深め、課題を共有しながら福祉のまちづくりを進めております。

